

『#告白 あるいは完璧な弁護』(ユン・ジョンソク監督、2022 年)を amazon prime video で視聴した。本作は『インヴィジブル・ゲスト』(オリオル・パウロ監督：2016 年)の韓国版リメイクである。『インヴィジブル・ゲスト』は movie Review 11 として既に報告した。2022 年 4 月 30 日にウーディネ極東映画祭(イタリア)でクロージング作品としてプレミア上映された。韓国では 2022 年 10 月 26 日に劇場公開されて、興行収入ランキング初登場第 1 位を記録。

オリオル・パウロ監督の作品は本流のエピソードに傍流のエピソードが添えられて、最後に無関係に思われた二つのエピソードが繋がって、アッと云わせる結末に流れ込んでゆく(どんでん返し映画の巨匠とも呼ばれる)。

密室殺人の容疑をかけられた IT 企業社長が事件の真相を追う姿を予測不能な展開で描いたサスペンススリラー。IT 企業の社長 Y の不倫相手である K が、ホテルの密室で殺害された。Y はその部屋の中で顔に怪我をして意識を失くして倒れていたのだ。第一容疑者となった Y は犯行を否認し、敏腕弁護士 YS を雇って事件の真相を探り始める。Y は事件前日に起きた交通事故(ある青年を救助も呼ばず死なせてしまっていた事件で、その被害者の父親が、起業家が関わったのではないかと疑い起業家に付きまとっている)が K の殺害に関係しているかもしれないと告白し、事件の再検証が始まるが、目撃者が現れたことによって事態は思わぬ方向へと転がっていく。そして最後に、大どんでん返しとなる。

『インヴィジブル・ゲスト』とその韓国版リメイクは、基本的なプロットや構造は非常に似ているが、文化的なアプローチや演出のニュアンスにおいて興味深い違いがある。

リメイクする価値は

- ・文化的翻訳：韓国社会の法制度や人間関係の描写が、物語に新たなリアリティを与えている。
- ・演技の違い：特に弁護士役の演技が印象を大きく変えており、同じ脚本でも異なる感情の波を生む。
- ・映像表現の工夫：話の内容が変わると映像も変わるという手法は、観客の認知を揺さぶり、より深い没入感を生む。
- ・サスペンス強化：ミステリーよりもスリラー要素を強調し、韓国映画らしい緊張感を演出。
- ・このリメイクは、単なる物語の再生産ではなく、「真実とは何か」、「語られる

物語の信憑性」、「記憶と証言の曖昧さ」といったテーマを、異なる文化的文脈で再検討する試みとも言える。

ということで、両方観る価値は十分にありそうだ（『インヴィジブル・ゲスト』の方が先に観たためかインパクトは強かった）。

評価：★★★★★